

# 緑の地球

## GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



今年で3年目の東北海岸林再生活動。9月17日の植樹祭に参加し、クロマツの植樹をおこなった。

### Contents

- 運営懇談会にご参加ください ..... P 2
- 年末寄付のお願い ..... P 2
- 東北海岸林再生ツアー報告・GEN 自然と親しむ会 P 2～3
- 2017年9月蔚県ツアー報告 ..... P 4
- 大同緑化協力25年の軌跡 ..... P 5

2017.11  
178

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク



## 運営懇談会にご参加ください

今年も運営懇談会を開催します。GENは2009年より毎年、東京と大阪の2か所で運営懇談会をおこない、会員同士で議論を重ねています。中国での緑化活動や国内での活動など年に一度会員同士で話し合う場ですのでぜひ

参加し、みなさんの忌憚ない意見をお聞かせください。

【大阪会場】

○日程：12月9日（土）13時30分～16時30分

○場所：大阪市立中央会館（大阪市中

## 年末寄付のお願い

立冬を過ぎ、ここ大阪にも冬の足音が聞こえてきました。そこで、冬のご寄付のお願いです。応援して下さるみなさまのおかげで、また、少しまとまった寄付金をいただいたこともあり、上半期の寄付金収入は予算の49.6%に達しました。ありがとうございます。

下半期も変わらぬご支援をいただきましたら、今年度の財政はかなり安定すると期待されます。冬期寄付へのご協力を、どうぞよろしく願いいたします。緑化基金、運営資金、

東北の海岸林再生、どの項目へのご寄付も歓迎いたします。決められない方はおまかせカンパにしてくださいと、事務局で最も必要とされている部分に充当します。



## 雨ニモマケズ、秋の天王山へ

太田 房子さん（GEN世話人）

10月14日、GEN自然と親しむ会「秋の天王山ハイキング」をおこない、8名が参加しました。ハイキングのあとはサントリー山崎蒸留所のウイスキー館に立ち寄り、見学とテイastingを楽しみました。

秋の長雨続きで実施が危ぶまれていましたが、あの「天王山」へのハイキングが参加者8名で実施されました。

阪急京都線大山崎駅をスタートし、

急坂を登っていくとやがて宝積寺。境内を突っ切って山道に入ります。両側は竹と雑木林ばかりで、曇り空でもあり、薄暗い道です。GENの行事としては植物観察にはならないかもしれませんが、キノコが少しありました。

急坂を登っていくとやがて宝積寺。境内を突っ切って山道に入ります。両側は竹と雑木林ばかりで、曇り空でもあり、薄暗い道です。GENの行事としては植物観察にはならないかもしれませんが、キノコが少しありました。

今年の岩清水八幡宮のキノコ観察会、先日の洛西竹林公園の自然と親しむ会に続いて竹尽くしの3回目。京都と竹の深い結びつきを感じました。

途中展望のきく広場や見晴らし台では大阪平野、京都盆地が

中央区島之内2-12-31 地下鉄堺筋線・長堀鶴見緑地線「長堀橋駅」⑥出口から徒歩7分 tel.06-6211-0630 URL: https://www.osakacommunity.jp/chuo/

○参加費無料、事前申し込み不要ですが、参加をご希望のかたはGEN事務所までご連絡ください。

○終了後、懇親会を予定しています。会費4,000円程度。参加ご希望のかたは12月6日までにGEN事務所へお申込みください。

【東京会場】

○日程：12月16日（土）15時～18時ごろ（それに先立ち、13時30分～14時50分まで関東ランチ月例会で高見邦雄 GEN 副代表が報告をします）

○会場：立教大学池袋キャンパス太刀川記念館1階第1・2会議室（JR「池袋駅」西口から徒歩7分 URL: http://www.rikkyo.ac.jp/access/ikebukuro/）

○参加費無料、事前申し込み不要。

○終了後、懇親会を予定しています。会費は5,000円程度。懇親会参加希望者は12月10日までに上田（ueda@rikkyo.ac.jp）までご連絡ください。

はるか遠くまで展望できます。本能寺の変のあと、羽柴秀吉と明智光秀が戦ったり、幕末禁門の変で破れた長州勢の17烈士が自決したりと、古来要衝の地であったことが納得できます。

今は高速道路が交差し、はるかかなたまでビルが林立していますが、かつて山、川、田畑や家々はここからどんなふうに見えたのでしょうか、なかなか想像できません。

標高240mの山頂でお弁当を食べていると雨が降り出しました。急坂をすべらないように緊張して降りました。山に馴れない人もいましたが、全員無事降りてよかったです！

あらかじめ事務所で予約していただいたサントリー山崎蒸留所展示館に立ち寄りました。展示を見たあと、試飲を楽しむ人、香りを楽しむ人、いっときおしゃべりに花を咲かせて解散しました。

## あれから6年、復興途上の現地を訪れて

城野 宜臣さん（GEN会員）

9月16日～17日の日程で東北の海岸林再生プロジェクト協カツアールをおこない、10名が参加しました。

9月16、17日に第3回の東北の海岸林再生プロジェクト協カツアールが実施されました。台風18号の来襲が心配されましたが、予定どおり、関西から川島、高見両副代表を先頭に8名、地元仙台から1名、関東から私の1名、の10名が参加しました。

16日の昼過ぎに仙台空港に集合、被災地を案内していただく「まちかど公共研究所」主宰の工藤寛之さんが待っていてくれました。レンタカーで仙台市の海岸に向かいます。目立つのはクレーンやシャベルカーなどの重機ばかり。東日本大震災から6年ですが復興はまだ途上にあるということがありありとわかります。仙台市荒浜地区、藤塚地区と回ります。五柱神社の津波でも残ったという狛犬の表情が親しげでした。

今年、震災の記念として保存するこ

とが決まったという荒浜小学校を訪ねました。2階まで押し寄せる瓦礫の中で地域の方がたと共に屋上に避難しヘリコプターで救出された様子を映像で見ることができました。

次に向かったのはせんだい3.11メモリアル交流館。スタッフの田澤さん（仙台市民文化事業団）に案内してもらいました。

翌17日は名取市役所でゆりりん愛護会会長の大橋さんと合流して岩沼市寺島地区の植栽地に向かいます。現地にはゆりりん愛護会のメンバー以外にも明るい社会づくり運動推進協議会、緑化推進協議会、土壌医、樹木医など多彩な参加者が参加していました。植樹は、直径7、8cmの穴をあけて2年生の苗を差し込み、まわり3カ所に固形肥料を埋めるだけの簡単なやり方です。210本余

りを一時間足らずで植え終わりました。午後の予定もありましたが、帰りの欠航の報が入り名取駅で解散となりました。

わずか1日で震災復興の現状が把握できたとは思えませんが、言えることは、お話をうかがった工藤さんや田澤さんや大橋さんが地域に足をつけた活動をなさっていること、試行錯誤のなかで自分の考えをしっかりと持って明るく活動されていること、そのことを実感できたツアーでした。



## 竹の知識が深まった1日

牧野 佳歩さん（大阪大学法学部2年）

9月30日、GEN自然と親しむ会前中代表と歩く「野の道」シリーズ④洛西竹林公園を歩くがおこなわれ、18名が参加しました。

10:00、阪急桂駅前に集合。天気はとても良い。予想通り学生は私だけで、周りには自分の母または祖父母に近い年齢の人しかいなかった。GEN事務所の人とは面識があるが、他の方々とは初対面。果たして馴染めるだろうか少し心配しつつバス乗り場へ向かった。

10:05にバスが出発し、10:25に最寄りのバス停に降り立った。周りには見渡す限り住宅地。だが歩くとすぐに公園入口に到着した。

公園に入ると早速、前中代表の解説が始まった。竹は大きく分けて2種類ある。ひとつはモウソウチクなど日本によく見る竹で、もうひとつは熱帯地方に多いホウライチクなどのバンブーの仲間だ。

前者は私たちが「竹林」と言われたときに想像する方で、後者はもう少し丈が低く、スキのように株立ちになる。

10:50、公園内の資料館に入る。中には竹の地中部分の模型があった。実は竹は地上で見える部分よ

りもかなり広い範囲に地下茎が張り巡らされていて、それを実感することができた。また、工業的に加工された様々な模様の竹も見ることができた。

資料館を出てからも竹林は続く。私は今まで竹を近くでまじまじと見たことがなく、節に対して直角に筋が通っていることにも今回初めて気がついた。黄土色の竹には緑色、緑色の竹には黄土色というように、地の色と筋の色が対応しているのも面白かった。竹の花も見ることができた。イネ科らしいこぢんまりとした花だった。60年周期で咲くのだという。

ひととおり散策が終わると、公園内のひらけたところで昼食を食べた。ほとんどの人が差し入れを持ってきていて、葡萄やナツメ、お菓子などをいただいた。このときに他の参加者の方と少しお話しすることができた。会の最後に普段話せないような世代の人たちと交流することもできてよかった。





驚き、発見、学び…

## 緑化活動を通じて見た中国

9月に大阪市RR厚生会のツアー（9/7～9/11、12名）とイオンリテールワーカーズユニオンのツアー（9/8～9/10、17名）が河北省張家口市蔚県を訪れ、植樹活動や小学校での交流をおこないました。今号では参加者の報告を掲載します。

### 水環境は変わらず厳しい状況

橋本 順一（大阪市RR厚生会）

9月7日～11日の日程で大阪市RR厚生会から12名が、張家口市蔚県の永寧山・標高1200mの山地に、アブラマツを植樹する緑化活動に参加してきました。

蔚県の年間降水量は平均400mmでその70%が夏に集中し、時にはゲリラ豪雨となって水土流失が起こり、砂漠化が進み作物や植物が育たなくなる厳しい自然環境です。

蔚県・永寧山での緑化活動は、166,500本のアブラマツを3年で植える計画です。当日は残暑の中、イオン労組と合同作業でアブラマツを500本植えました。植林作業を通じて環境破壊

の現実にふれ、水・土・緑の重要性を感じることができました。

緑の地球ネットワークは25年間、地元の政府や農民の方々などの協力を得ながら、荒廃した山地「黄土高原を緑の高原」に変化を遂げるまで活動を行っています。

私たちは、活動の広がりとして継続した取り組みで、着実に緑が取り返せると確信しています。地球規模の温暖化防止のため、地球上の緑化の重要性は疑う余地がないことから、自分が好きな



自分にできる方法で、また継続して取り組むことで、微力ながら地球に貢献できればと思います。

中国は市場経済政策によって非常に勢いで経済成長が進み、調和社会の建設をスローガンに、都市と農村などの貧富の差を抑えようとしています。急激な経済成長の裏には工業化による水質汚濁・大気汚染など、深刻な問題となっています。経済成長を否定するものではありませんが、経済優先や軍備拡張を改めて、緑化の推進や水質改善などの環境汚染の防止策や農村の復興を講じて貧困の連鎖を断ち切れないものかと感じました。

なったらよいなと思いました。

植樹活動の合間には、蔚県の小学校にも立ち寄り、小学生と交流しました。教室の黒板の横に大きな画面があり、それを使って音楽を聴いたり動画を見たりしながら授業をしています。私は日本より設備が進んでいることに驚きました。しかし一方で、小学校のトイレは中国の昔ながらの穴を掘っただけのトイレです。そのインフラの差にも驚きました。

中国には日本語を話せる日本が大好きな中国人もたくさんいます。空気も綺麗でしたし、みんな親切で、中国のことを教えてくれたり、おいしいお酒を勧めてくれたり、渡航にあたり抱いていた不安は吹き飛んでしまいました。治安についても、むしろ北京より大阪のほうが治安が悪いと感じたくらいです。

私は今回の活動を通じて日本に居ながら中国のことを知ることと、実（ノ）

## 大同緑化協力25年の軌跡

### 災害は貧しい村を狙い撃ちする

GENの山西省大同市での25年の緑化協力を振り返り、当時の写真も交えてシリーズでご紹介します。今回で5回目です。（高見邦雄）

大同市の大同県と陽高県の県境は地震の多発地域です。1989年10月にマグニチュード6.1、1991年3月にM5.8の地震があり、1989年は死者19人をだし、激震地では80%以上の家屋が倒壊しました。その2回は私たちが緑化協力を始める以前のことで、たとえば大同県徐町郷では最初に訪れた1992年10月にはほぼすべての家屋が新しいレンガ造りで、地震に備える警戒態勢がありました。被災の直後ですから、まだ緊張していたのです。

そして1999年11月1日にも同じ地域でM5.6の地震があり、その直後に私は陽高県西団堡村を訪れました。この村の多くは日干しレンガ造りの窑洞（ヤオトン）でしたが、前2回の地震でほぼ壊滅し、世界銀行の借財でレンガ建てを新築していました。そのおかげで犠牲者はなかったのですが、借金の返済前に壊れてしまい、経済的な被害は大きかったのです。

新しい小学校も同様で、子どもたちはテントの教室で勉強していました。日中でも零下10度以下に下がるなか暖房はなく、テントの裾を寒風が巻き上げます。子どもたちは机の下で足踏みして先生の話聞いていました。

（ノ）際に訪問して自分の目で見て感じることに大きな差があると思いました。GENさんの植樹活動を通じて、実際の中国の人々、文化、環境に触れることができ感謝しています。まだまだ自分には知らない世界、知らない人々がいることに気づき、自分の世界の狭さを感じました。またぜひこのような活動に参加したいと思います。

私たちの活動を支援して下さったみなさん、本当にありがとうございました。

住民にも救援テントが支給されましたが、寒い夜を過ごせないで、人びとは倒壊した家からレンガや廃材を引き出し、屋根の低い仮住まいを建てていました。そのバイタリティには驚いたものです。10年に3度も地震に襲われたのではたまらないので、この村は県内のべつ場所に転移し、新団堡村と名を変えました。

私は北京の日本大使館を訪ね、杉本信行公使にその惨状を話し、支援を頼み込みました。大同県と陽高県の2つの小学校再建に協力が決まり、その1つが新団堡村の小学校でした。産経新聞の山本勲編集委員が2008年に大同を訪れたとき、この小学校を案内しました。校長が「この小学校は日本の協力で建てられたものです」と感謝を述べると、山本さんは「いつまでも覚えていてもらうとうれしいですね」といって、そのときのことを4回連載の1回で取り上げました。

1998年1月、河北省張



家口市の張北県と尚義県の県境で地震が発生したとき、たまたま大同市天鎮県にいた私は、その翌日に被災地を訪ね、外国人の慰問第1号になりました。大阪のラジオでそれを紹介したところ、阪神大震災からまもない時期で大きな関心と義援金が寄せられ、張北県の爬狐不落村の小学校再建に協力したのです。張家口市蔚県での緑化協力がはじまり、張家口市の青年団幹部にその話をしたところ、「私が生まれた年です。そんなことがあったのですか!」と聞いて感謝してくれました。

張家口市の地震も県境でした。境界というのは例外なくどこも貧しいものです。自然災害はその貧しい地域を狙い撃ちする、というのが私のつよい印象です。

### 蔚県での植樹活動を経験して

松田 宗之（イオンリテールワーカーズユニオン）

今回の植樹活動に参加して、今まで中国という国に抱いていたイメージが大きく変わりました。

私たちは今回、北京からバスで5時間のところにある蔚県という地方で植樹を行いました。のどかな田舎でしたが、山には雑草が少し生えている状態で、森林ではありませんでした。

中国渡航前の事前セミナーで、これまでGENさんが活動されてこられた大同の映像を拝見した時、そこに映し出されている地域には立派に育った木々が青々と輝いていました。GENさんが25年前から植樹活動を始めて、25年前に植えた木は今、立派に育っています。私は、25年間植え続けた木が、大きく

育ち風景を変えているということ、その活動を継続されていることに感動しました。そして、活動を通じた「国を超えた絆」が大同から蔚県という地域へ活動の広がりを生み出したことも素晴らしいと感じました。これから活動を続けられる蔚県についても、いつかこのような緑の大地に



## 2018 黄土高原スタディーツアー 予告

2018年春のスタディーツアーの日程が決まりました。村での植樹や交流を予定しています。春は植樹の季節、この機会にぜひ参加ください。  
○日程：2018年4月14日（土）～4月19日（木）  
○訪問先：中国河北省張家口市蔚県（北京経由）  
○定員：30名程度  
○参考費用：169,000円（2017年春

実績）関空発着 ※詳細は次号でお知らせします。





GEN 自然と親しむ会

参加者募集

無煙炭化器を使った炭焼きとバーベキュー

無煙炭化器を使った炭焼きとバーベキューをおこないます。恒例の焼き芋のほか、豚汁と羽釜で炊くごはんにも挑戦します。
○日時：11月25日(土)10時～15時ごろまで
○場所：西宮市武庫川河原(JR福知山線「武田尾駅」付近)
○集合：JR福知山線「武田尾駅」に10時
○持ち物：バーベキューの食材を各自持参、飲み物、敷物、食器(お皿、お椀、お箸など)作業のできる服装と靴、軍手、雨具
○参加費：500円(保険料を含む)
○定員：20名
○問合せ・申込み：11月22日(水)までにGENまで氏名、連絡先、生年月日をお知らせください。
※雨天の場合は中止

GEN 自然と親しむ会

前中代表と歩く「野の道」シリーズ⑤ 野間の大ケヤキを訪ねる

国指定天然記念物の野間の大ケヤキを見に行きませんか。能勢のハイキングを楽しみましょう。
○日時：12月23日(土)9時35分～15時ごろまで
○場所：大阪府豊能郡能勢町
○集合：能勢電鉄「妙見口駅」に9時35分。妙見口駅からバスで「本滝口」まで移動します。
○持ち物：動きやすい服装・靴、帽子、弁当、飲み物、敷物、雨具、あれば植物図鑑
○案内：前中久行さん(GEN代表)
○参加費：500円(保険料を含む)
○定員：20名
○問合せ・申込み：12月20日(水)までにGENまで氏名、連絡先、生年月日をお知らせください。
※雨天の場合は中止

ワン・ワールドフェスティバル for Youth 高校生のための 国際交流・国際協力EXPO2017 GENが展覧します

ワンフェス for Youth は高校生がつくる国際交流イベントです。昨年に引き続き、今回もGENがブース展覧します。当日ボランティアで参加できるかたはGENまでご連絡ください。
○日時：12月23日(土)10時～16時
○会場：大阪YMCA(大阪市西区土佐堀1-5-6)
○入場料：無料
○主催共催：ワンフェス for Youth 運営委員会/特定非営利活動法人関西NGO協議会/公益社団法人大阪国際交流センター
○問合せ：ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 高校生のための国際交流・国際協力EXPO2017事務局(特活)関西NGO協議会 〒530-0013 大阪市北区茶屋町2-30 4階 tel.06-6377-5144 fax.06-6377-5148 URL http://owf-youth.com/)

黄土高原史話<85>

北魏、東・西に分裂す

谷口 義介 (GEN 会員)

楊銜之『洛陽伽藍記』巻一「永寧寺」の項にいう。
「永熙三年(534)二月、この塔は火災で焼け落ちた。孝武帝は凌〔陵〕雲台に登って火を望見されると、南陽王の宝炬(のちの西魏第1代文帝)と、録尚書事の長孫稚をつかわし、近衛兵一千を率いて消火に向かわせた。・・・

七月になって、平陽王(孝武帝)は侍中の斛斯椿に脅迫されて、長安に逃亡した。十月、都は鄴(河北省)に遷った。」

北魏後期の都にして仏教都市・洛陽(河南省)を象徴する永寧寺は、534年、落雷による火災で焼失したが、じつはこの前後、北魏の中央政局は激動の真っ只中であつた。

前回述べたように、第9代孝荘帝は、530年、榮の専権を憎んでこれを誅殺するが、その甥の爾朱兆により山西省晋陽(太原)でくびり殺された。爾朱氏は531年、皇族の一人元恭を帝(第10代節閔帝・前廢帝)として立てる。

これに対し、河北省各地の豪族たちは、連携して反爾朱氏に立ち上がった。おりしも、爾朱兆の武将としてもとの六鎮の反民20万余を率いていた高歡は、食糧調達を名目に河北省信都に迫ったが、両者のあいだで連携が成立。531年、別の皇族の一人元朗を帝(後廢帝)と

して推戴する。

翌532年、高歡らの連合軍は河北省鄴を占領。これに対し爾朱兆らは20万の大軍を集結し、両者のあいだで決戦の火ぶたが切られたが、爾朱側は大敗し、殲滅される。

実権を握った高歡は、爾朱氏が立てた節閔帝ばかりか、自らが信都で擁立した皇帝とともに廢して、新たに皇族の一人元脩を位につけた。これが北魏第11代の孝武帝にほかならない。そして、即位2年後の534年、永寧寺が焼亡したわけだ。

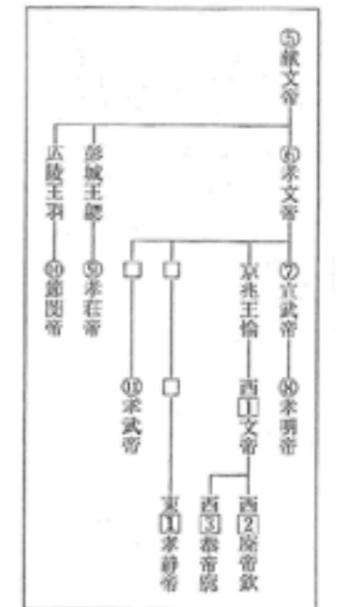
その後、高歡は晋陽にあって洛陽の北魏朝廷を遠隔操作。これを嫌った孝武帝は高歡を伐つべく出陣するが、あえなく失敗。同年7月、長安の宇文泰が独自の勢力を築いていたからだ。

それではと高歡は、清河王の元善見を立てて帝(東魏第1代孝静帝)とし、都を洛陽から鄴に移した。『伽藍記』がいうように、同年10月のことだ。

かくして、鄴で孝静帝を奉ずる高歡と、孝武帝を長安に迎えた宇文泰の二大勢力が華北の東西に対峙する。ただし、孝武帝は半年もたたぬうち、宇文泰により毒殺。常軌を逸した乱倫が嫌われたらしい。代って宇文泰は、その従兄の元宝炬(かつての南陽王、西魏第1代文帝)を擁立した。ここにいたつ

て北魏は、東魏と西魏に完全分裂。これより13年後の547年、東魏の役人になっていた楊銜之は、『伽藍記』の序文にこう書いている。

「私は役向きの旅の道すがら、再び洛陽を見る機会を得たが、城壁は崩れ落ち、宮殿は傾き倒れ、寺院は灰燼に帰し、廟塔は廢墟となっていた。」



北魏末期系図

いままぐできる GEN への協力

■会員の輪をひろげよう!

Table with 2 columns: Category and Amount. Includes Green Earth Network membership fees (annual, general, family), student fees, junior member fees, group fees, and sponsorship fees.

■会報を購読してください!

GENの活動に関心はあるけれど会員になるのはちょっと、という方は、会報『緑の地球』を購読していただませんか。年間購読料2,000円。

■緑化基金、運営寄付もとむ

金額は自由です。また、緑化基金、運営寄付の別を問わない使途自由のご寄付も受け付けます。その場合、必要に応じて使わせていただきます。

\*緑化基金の20%は事務管理費になります。

■書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のはがきを集めています。通信費にあてます。

■未使用切手・古切手を集めています

普通切手、記念切手、外国切手なんでもOK。周囲を1cmほど残して切り取ってお送りください。

■ボランティア募集

会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。参加可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときにGENから連絡します。

\* \* \* \* \*

【GENへの寄付は税制上の

優遇措置を受けられます】

緑の地球ネットワークは大阪市に認定された認定NPO法人です(期限は

2019年4月8日まで)。

個人によるGENへの寄付は、税額控除あるいは所得控除を受けられます。対象となるのは2,000円を超える寄付金で、確定申告が必要です。

企業からの寄付金は一般寄付金の損金算入限度額とは別枠の損金算入限度額が認められています。

また、個人が相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告期限以前に認定NPOに寄附すると、相続税の課税対象から除外されます。

GENの場合、寄付金となるのは緑化基金、運営カンパ、おまかせカンパと会費のうち1口を超える部分、賛助会費から12,000円を引いた金額です。

また、大阪府民、大阪市民のかたには個人住民税の控除もあります。

くわしくはGENまでご連絡ください。

ゆりりん愛護会 マツ苗移植作業支援のお願い

東北の海岸林再生を続けている「ゆりりん愛護会」、GENも2015年から協力しています。会長の大橋信彦さんからマツ苗移植の支援のお願いが届いています。

「ゆりりん愛護会」は、東日本大震災で生き残ったマツを育てる活動を続けていますが、大きく成長したマツ苗

おおよそ3,000本を移植する必要に迫られています。掘り起こしから運搬、移植にともなう多くの費用が発生します。みなさまのご協力をお願いいたします。
○移植時期：2017年10月～2018年3月
○義援金振込先：七十七銀行名取西支店 普通預金 口座番号5358949

名義人 ゆりりん愛護会(ユリリンアイゴカイ)会長 大橋信彦(カイトウ オオハシノブヒコ)
※ご支援の金額は一口1,000円からでお願いします。





第24期  
自然大学  
参加者募集

- 自然環境について学び考える市民大学で、室内講義と野外実習があります。
- 期間：2018年4月8日～2019年3月10日(全14回。原則日曜日開催)
  - 定員：50名(18歳以上)
  - 受講料：35,000円(交通費、宿泊費、野外実習の経費等別途)
  - 講師：只木良也氏(自然大学学長、名古屋大学名誉教授) 渡辺弘之氏(京都大学名誉教授) 伊藤孝美氏(自然大学教文部長) ほか
  - 申込み方法：郵便またはファクスでお名前、生年月日、性別、職業、住所、趣味・特技、電話番号、ファクス番号を明記のうえお送りください。
  - 主催・申込み先：NPO法人自然と緑(〒537-0025 大阪市東成区中道3-2-34 tel.06-6978-5060 fax.06-6978-5061 e-mail:sizen\_mi@osb.att.ne.jp URL:http://home.att.ne.jp/iota/sizen\_midori/)

2018年度(第16期)  
自然環境市民大学  
参加者募集

- 第16期から春夏コース、秋冬コースの半年単位の講座が誕生しました。
- 時期：春夏コース：2018年4月～9月の全17回／秋冬コース：2018年10月～2019年3月の全17回(原則水曜日開催)
  - 定員：30名程度

\*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。  
\*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

- 受講料：各30,000円(両コース申込みの場合、2コース目は27,000円)
- 講師：高田直俊氏(大阪市立大学名誉教授) 伊藤孝美氏(大阪府農業大学校講師) 佐藤治雄氏(大阪府立大学名誉教授) ほか
- 申込方法：春夏コースは2017年11月から、秋冬コースは2018年6月から受付します。氏名、性別、年齢、住所、e-mail、電話番号、ファクス番号、携帯電話、受講コース、保全協会の会員か否かを記入して電話、ファクス、e-mailでお申し込みください。
- 主催・申込み先：(公社)大阪自然環境保全協会 市民大学係(〒530-0041 大阪市北区天神橋1-9-13 ハイム天神橋202号 tel.06-6242-8720 fax.06-6881-8103 e-mail:shimin@nature.or.jp URL:http://www.nature.or.jp)
- 会場：ドーンセンター大ホール(地下鉄・京阪電車「天満橋駅」徒歩5分)
- 資料代：前売り1,000円 当日1,200円(学生500円)
- 主催・問合せ：「80年目の南京」実行委員会 tel.090-8125-1757

おいしいぽんかん  
いかがですか

★甲浦ポンカン(低農薬・動物性有機肥料のみ使用)

【歳暮・贈答用化粧箱入り】

A	2L/3L	5kg	30個前後	4,200円
B	2L/3L	3kg	20 "	2,800円
C	L	5kg	35 "	3,900円

【普通箱入り】

D	2L/3L	5kg	30 "	3,800円
E	2L/3L	3kg	20 "	2,500円
F	L	5kg	35 "	3,300円

【家庭用】

G		5kg	33 "	2,800円
ゆず酢	4合瓶	2本入り		4,000円

※出荷：12月10日～2月下旬

※送料別途。20kgまで関西650円、関東・甲信越860円。

★ご注文は

〒781-7412 高知県安芸郡東洋町大字河内203 田中農園 田中隆一さん (tel./fax.0887-29-2500 e-mail:tanakan3@cronos.ocn.ne.jp)

※売り上げの一部を寄付していただいています。ご注文の際は一言「GENの紹介」と添えてください。

『80年目の南京』

ドキュメンタリー上映 証言 講演会

- 日中国交正常化45年の節目の年、ドキュメンタリー映画を上映します。
- 日程：11月26日(日)13時30分開場14時開演
  - 内容：ドキュメンタリー映画『外国人が見た南京大虐殺』(江蘇電視台制作)50分/講演とトーク『記者が報じた南京大虐殺』毎日新聞 油谷茂樹さん/証言『元兵士が体験した南京大虐殺』南京攻略海軍兵士 三谷翔さんの遺言